くらふと
県育協だより

発　行
鳥取県子ども家庭育み協会
広報委員会
第23号

「座談会」～「知ってるようで 知らなかった 育み協会って何なの?」～

鳥取県子ども家庭育み協会　理念と方針　～ホームページより～

■協会設立の経緯と目的

従来、鳥取県の保育団体は、全国組織である、全国保育協議会・全国私立保育園連盟・日本保育協会の下部組織として、個別に存在していました。しかし、保育の充実や地域社会に対する保育の理解促進・保育に関する制度改革および地方分権時代を含めた今後の情勢の変化に対応することを目的とし、県内の保育三団体の力を結集し、鳥取県の保育を代表する保育団体として設立いたしました。

■協会の基本理念と方針

基本理念　本会は、鳥取県内保育関係者の連携を密にするとともに、保育事業に関する振興、研究活動の促進を計り、「児童の最善の利益」の増進に寄与することを目的とする。

方　針　本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1．保育事業に関する調査・研究・広報
2．保育事業従事者に対する研修および福利厚生
3．本会の目的達成に協力する団体等の連絡提携
4．その他、本会の目的達成のために必要な事業

【出席者】（敬称略）
佐藤比登志
育み協会副会長（ひばり保育園）
福田　泰雅　育み協会理事（赤碕保育園）
柏木　克仁
育み協会理事・青年部部長（育成保育園）

福田：鳥取県の保育の団体としての経緯について押さえておきましょう。公立の場合は、全国保育協議会、民間の場合は全国私立保育園連盟、日本保育協会のどちらか、もしくは両方、又は3つ全部に加盟している場合がある。全国的にはその流れであるが、それを人口の少ない鳥取県が同じ様に3つの団体で取り組んでいくのは非常に非効率。それぞれに研修を組んだり、事業をやっていくとなると重なる事が多く、役員も重なる。なので、県内の事について考えていくには、3団体が一本化されていた方が良いのではないかという話が前々からあって、14年に準備にかかって、15年に発足した。

目的は、以前から出ていた保育制度の色々な矛盾点、歪み（一方で少子化社会と言っているのに、待機児童が出ている問題等）、それと合わせて幼保一元化への対応をどうするのか、色んな運営主体の保育経営参入が県内で出た時どう対応するのか合わせて考えていきましょう。後は研修を含めて保育の質をどう高めるのか、その為にどう研修をしてどう深めていくのか考えましょう。「保育」というものが幼稚園が行っている「幼児教育」より一般的に理解が進んでいないという事に関して何とかしなくてはいけないんじゃないかという問題。それと国際化。

自分たちの保育を考える時に、いったん外に出て見て見えてくる所がある。そういう意味合いで積極的に外に出て我々の保育を見直していく機会に繋げる事も、目的としていた。

佐藤：鳥取県子ども家庭育み協会の由来は？

福田：保育の関係者、団体としてだけではなくて、児童といった場合の我々の感覚だと小学校に入るまでしかみてないけれど、児童福祉の児童は18才まで含めてる。その長く子どもの存在を見ていった時に必要な事をちゃんと見る様にしましょうという事で名称として大橋先生（育み協会・現会長）より提案があり、最初は「鳥取県育み協会」だったのが、「何を」、「誰を」という話になって（子どもと家庭を）じゃないかと言う話になり（鳥取県子ども家庭育み協会）と言う名称になった。

佐藤：方針については？

福田：一つは、他の関係機関と連携する。次に児童中心主義の保育を目指すべきではないか、と言う話になりその方向で保育を考えましょう。という事になった。後、保育の研究をちゃんとやっていきましょう。

佐藤：研究の面ではいかがですか？

福田：保育三団体の中で毎年研究をやっているが全国大会に繋がる様な研究をローテーションでやっている。何年か毎に必ず研究発表が回ってくる、その仕組みがローテーションであっていいと思うがローテーションじゃないと研究しないというのも変だよね……。とそうじゃなくて自分たちが自主的にこれについてもっと知りたい、分かりたい、理解したいそういうものを自主的に研究できるような仕組みを団体として持つべきじゃないか。予算組もしてある。どんどん自分たちで研究できればいいなと思う。

佐藤：研修について以前と変わった所はありますか？

福田：研修については今必要な研修は何かをきちんと見定めて将来に向けてしっかり学んでいきましょう。という事になり、一本化にしてからは講師も東京など中央から呼べるようになり、お金をかけて実のある研修が出来る様になった。

柏木：今まで 3 団体が分かれていた時には各施設ごとに会費を納める形だったんですか？

福田：その頃、市町村合併が進んでおりそれに伴って統廃合も行われてくるとなると施設割という会費の払い方があったが、このやり方だと統廃合により施設がなくなるという事も見えていた。なので施設数に左右されない会費の納め方として個人会費にすることにした。そうすることで保育をする責任を担っているという意味で個人できちんと保育を考え、自分で行動する、研修に行かされるのではなく、自主的に参加しようとする考え方にも繋がっていくのではないかと思う。

柏木：基本的に個人会員というのはすごくいいと思う。最初は育み協会自体も分からないし、遠いイメージがあった。でも、個人会員として加盟する事で、一人一人が意識を持って研修に行くなど、個人会員としての自覚をどう深めていくかでもっと発展していくと思う。

育み協会＝研修というイメージがありますが、活動内容の中に研究も入っていますよね。研究についての現状は具体的にはどんなものですか?

福田：研修というのは色々な課題があって、その課題に対して、どういう考え方でそれにどう対応すればいいのか、どういう手法があるのかを伝え聞く部分が多い。今まである色んな知識、見解をもとに問題解決していこうという形。研究というのは“これ不思議だな”と思う事について“何故そうなんだろう”と自分で探求していく部分が強い。でも、保育現場にいると中々

研究するという時間がない。そこが課題でもあります。

柏木：では、考え方として、育み協会として研究事業をどんなふうに展開していけば深まるのかな、と今思ったんですが。

福田：例えば、育み協会の県大会の中に研究大会として自分のやってきた研究を発表する場を作るとか。

柏木：現在は鳥取県保育推進研究大会の中にはない？

福田：今は、ほぼない。今は研修大会になっている。また、くらふとの中に掲載するという方法もあるでしょうし、研究大会なので、研究したことを発表する場として捉え直した方がいいのかな。

柏木：今の部会では研修が主な活動になっていますが、研究というものを取り入れながら、各部会で話し合えたらまた違う感じになるかと思います。

福田：そうですね。研究してきた事をその場で発表して、助言者の先生に色々な助言を頂きながら、会場にいる人たちで、それについてはどうなんだろうとか、自分はこう思うんだけどとそういったやり取りをしていく、それが研究の場ですね。

柏木：それに気づかせてもらえるような育み協会でありたいですよね。

……この後も色々と話が弾みました。

福田先生には、育み協会の発足の所から話をして頂きました。この十年余りで保育情勢も大きく変わって来たと思いますが“子ども”と“家庭”を健やかに育むという会に所属している私たちが、鳥取県の保育について、主体的に考えていかなければならないと感じる事が出来た「**座談会**」でした。

これを読まれて、もし自分の心に何かが芽生えたのだとしたら、皆さん一人一人がせっかくの会員なのだから、興味関心を持つ事の大切さを再認識し、一歩前に踏み出して欲しいと思います。

（まとめ／広報委員：松原香里・加田美智代）

各研修会報告（9月～H28年1月）

第1回乳児保育研修会「子どもと楽しむわらべうた」

ババール園　河本　千枝

平成27年度鳥取県保育所(園)第1回乳児保育研修会が9月5日(土)、福祉人材研修センター、9月6日(日)、国際ファミリープラザにて開催されました。

講師に、わらべうたうたいの坂野知恵先生をお迎えして「子どもと楽しむわらべうた」というテーマでおはなししていただきました。

先生は『0歳～100歳までが一緒に楽しむわらべうた』をコンセプトにアートスタート作品（鑑賞する舞台）を始められ、子どもとともに同じものを見つめ、同じ音を聴き、同じ空間の中で笑いあったり驚いたり、心が揺れ動く瞬間を共に感じ合うことを目的とされています。

講演が始まると直ぐに『あんたがたどこさ』のわらべうた遊びにより、会場の緊張がほぐれ和やかな雰囲気になりました。

わらべうたは日本語に無理のない歌詞で、大人だけでなく子どもにも歌いやすいのが特徴で、自分の好きなトーンで好きなスピードで歌え、歌詞を忘れてしまうことがあっても、鼻歌で歌ったり歌詞を替えても良いと話されました。わらべうたは、リトミックのように子どもがキャーキャーと喜ぶような派手さはないかもしれませんが、心の奥深くまでジーンと届くような魅力があると感じました。

子育てにわらべうたを取り入れることは、子どもだけでなく親も心が落ち着きお互いにとてもいい影響があります。また、わらべうたには手遊びも多く、お手玉やストールなどのアイテムを用いることでも遊びが広がります。自然にスキンシップやコミュニケーションに繋がり親子の絆が深まります。

実技では、実際にアートスター

ト作品の雰囲気に近づけて会場のテーブルや椅子を取り除き、ゆったりとした環境の中で季節に合わせたわらべうたを心地よい歌声で歌ってくださいました。また子どもと関る人には歌って欲しい、自分のためにも歌って欲しい、それが鼻歌でも良いとお話ししていただきました。声を出して歌い体を動かし、体も心もあたたまるひと時で、これからの保育の中でも直ぐに取り入れられますし、保育参加など育児中の保護者に伝えていく触れ合い遊びにピッタリだと思います。最後に『富貴万福末盛』で閉めくくり、こころ心地よいメロディーで和やかな会となりました。

第2回施設長研修会「これからの保護者支援」

巌保育園　畠　美枝子

平成27年度鳥取県保育所(園)第2回施設長研修会が10月23日（金）倉吉未来中心にて開催されました。

「これからの保護者支援」というテーマで、白梅学園大学学長・東京大学名誉教授　汐見　稔幸氏をお迎えして講演をしていただきました。

講演では、子どもをもっと社会全体で育てていこうとする姿勢が必要である事やまた、子どもを産んでよかった、良い親になろうとすることを応援していくような支援制度が求められる。そして、子どもの最善の利益を重視してほしい。子どもの利益を守る事、保護者とともに子どもの成長の喜びを共有することと話されました。保育園として今まで、お母さんの子育てに対する〝やる気・自信〟を作ってあげるような支援をしてきたのかを自分自身が問い直し反省しました。

また、具体例として話されたドキュメンテーションの利用の仕方については、「○○しました。」ではなく子どもの興味や成長したことを書くようにすると子どもが見えてくるようになり、保育が変わってくるとの話も印象に残りました。

その後の参加者からの質問では、「虐待予防を園としてどう対処するか」や「引きこもりと親子関係」など出ました。東村山市では、地域に虐待予防の拠点を作っていることや親が引いたレールの上を歩かせられた子が多く自尊感情が低いため引きこもりになる。自尊感情とは自分のことを自分で決めることで育っていく。遊びを思いきりさせて、思いきり失敗させ、たくましさを育てていくなど具体的に答えていただきました。

自らの保育を振り返り保護者支援とは何かを考え、保護者とじっくり向き合うこと、子どもの育ちを伝える事で保護者の自信につながり、〝がんばろう〟と言う気持ちにさせる事であることなど、今の実態に合ったお話でした。

具体例もあり、とても分かりやすく、保護者支援の必要性と大切さを再認識した研修会でした。

初任・初級保育士研修会「遊びきる子どもをめざして」

かいけわかば園　河本　千枝

10月29日、倉吉体育文化会館に於いて今年度3回目の初級初任者研修会が行われました。7月に行われた第1回では、講師の塩野谷

先生より『子どもが遊びたいと思えるような環境の構成を保育士が創り出すためには、まず子どもをよく見る（観察する）ことから』と、これから保育を深めていくうえで最も大切であり保育士としての基本を再確認したうえで、日々の保育及び第2回の実習先での学びに参加者それぞれが繋げていきました。

第1回、第2回の学びから、午前は『子どもの新たな発見』をテーマにグループ討議が行われ、どのグループも活発な意見交換がなされていました。意見発表の中には、「危険のない様行動の制限をすることが多かったが、子どもの行動や気持ちをより良く観察するようになってからは、保育環境や援助の仕方を工夫することで、子どもの可能性の引き出しや笑顔が増えたように思う。」と、この数か月で保育の見方が大きく変わったという喜ばしい報告が沢山ありました。午後からは『自分を振り返って』をテーマに意見交換する中で、「肯定的な言葉かけをしよう」「子どもの主体性を大事にしよう」「環境構成を見直し、工夫しよう」等、これからの保育の中で自身が大切にしていきたいことが沢山述べられていました。

塩野谷先生からは、「保育者の責任として、①子どもをよく見ることが、子どもの発見、子ども理解につながる　②研修に参加したり保育雑誌等で良く学ぶ姿勢が大切　③学んだことを基に子どもへ返す（園の実態に即した保育実践）④自分ひとりで出来ないことは見極めて他に委ねる（連携）　子どもへの保障として、活動的に学ぶという価値を見失わないように、子どもが楽しい、悲しいと実際に感じることが大切であり、経験して感じたことが学びの土台となっている。」と、3回の研修の集大成としてまとめの言葉を頂きました。

さいごに青年部和田副部長より、「保育の引き出しをたくさん作って、その時期・タイミングで引き出しを開けてほしい。将来、自分の子どもを預けたいと思えるような保育園にしていってください。」と、参加者にエールを送り閉会となりました。

第2回食育研修会
「シニア野菜ソムリエが伝える野菜のこころ」

大正保育園　岩崎　元子

平成27年度鳥取県保育所（園）食育研修会が11月8日（日）に倉吉未来中心にて開催されました。「シニア野菜ソムリエが伝える野菜のこころ」をテーマに講師にシニア野菜ソムリエの長島明子先生をお迎えし、ご講演いただきました。

長島先生は、地元の生産者の方々と一緒に野菜を育て収穫して、その野菜を使った料理教室の開催、セミナー講師、鳥取の果物のPRなど野菜の魅力を伝える多様な活動をして活躍していらっしゃることを知りました。

先生の自己紹介の中の「野菜で人や地域を元気にする」という言葉が印象的で、野菜を通してたくさんの人達と関わりを持ち、つながっていることを感じました。

また、野菜のクイズも行われ、毎日見ている野菜でも分からない事もあり、実際にいろんな種類の野菜を見て触れながら学ぶ楽しいひとときもありました。

そして、野菜の色（ファイトケミカル）には、野菜自身が紫外線から身を守るためでもあり、私たちが食べると活性酸素から体を守ってくれる力があることが分かってきているということや、近頃では年中たくさんの野菜が手に入るため、本来の旬がいつなのか分かりにくいですが、旬のものは栄養価が高いことや安価であり新鮮で、何よりその時期に人間にとって必要な機能を補ってくれることなど、

自分たちの体にとって良いこともたくさん学べました。

最後に、野菜が苦手な子ども達もいると思いますが、まずは野菜を好きになろうとすることが大事だそうです。好きになるには例えば、五感で感じることや、心や脳（経験や記憶）で感じること、みんなで食べるとおいしいと思える環境づくりなど様々な要因が関係しています。

私たちが工夫していくことで、子どもたちひとりひとりが野菜に興味を持ち、野菜のこころを感じ、今よりもっと野菜のことを好きになって、おいしい・毎日が楽しいと思える日々を一緒に過ごしていけたらと思います。

第2回乳児保育研修会
「乳児の生活と指導計画、養護と教育の一体化とは―」

いづみ保育園　西田　直美

平成27年度鳥取県乳児保育研修会が11月8日（日）倉吉未来中心にて開催されました。

講師に大阪総合保育大学児童保育学部長教授、大方美香先生を迎え、「乳児の生活と指導計画、養護と教育の一体化とは―」と題して、講演をしていただきました。講演の中で、特に印象深かったのは、見える部分やできる事に評価をおきがちではないか、できない理由を探っていくこと、できるようになるまでのプロセスを考えていくことが保育士の役割で保護者に対して保育とはどういうことか知らせる通訳的役割も担っているという言葉でした。次の時代を担う子どもたちに、乳児保育で何をすべきか、育てておかなければならない事は何か、保育士一人一人が日々の保育の中で起こっていることに対して、問題意識や課題意識をしっかり持って保育することが大事であることから保育士としての責任を強く感じました。

また、保育計画をたてる時に、これまでの自分の学んできた事や経験から大きな枠でねらいや内容を設定しがちでしたが、子ども一人一人の育ちを捉えているのか、一人一人の実態にあったねらいをたて、それを常に意識しているかなど、これまでの自分の保育を見直すよい機会となりました。

子どもの姿からどのように気づいていくかを事例をあげながらお話いただき、大人の働きかけがいかに子どもの育ちに関わってくるのか、よくわかりました。

乳児保育の重要性を心にとめながら、より一層、子ども一人一人の実態把握に努め、子どもの育ちを大切にした保育を心がけていきたいです。

第2回障がい児保育研修会
「誰もが大切にされる保育」

やばせこども園　前田　直美

平成27年度鳥取県保育所（園）第2回障がい児保育研修会が1月17日（日）倉吉未来中心にて開催されました。

講師に東京家政大学ナースリールーム井桁容子先生を迎え、「誰もが大切にされる保育」と題して、ご講演をいただきました。

研修では、まず1枚の子どもの写真から、情景や姿を読み取ることを行いましたが、私たち保育士はついつい目に見えない物を想像してしまいがちであり、それが決めつけた見方につながってしまいやすいことに気付かされました。

保育士は、思い込み、決めつけ、見間違いをなくし的確に子どもの実態を捉えること、保育士の価値観や行動の型を押し付けないことが大切であることを学びました。また、一方的に子どもを見るのではなく角度を変えて、逆の立場、相手の立場からも考えていくことが必要なことも話されました。発達障がいの子ども達は、その子が一番困っているので、保育士がしたことが本当に子どもの為になっているのか、相手によかれと思ってするのではなく相手が求めていることを的確に捉え関わっていくことが大切であるということです。それは保護者に対しても同じです。保護者の不安や言葉の裏側を読み取り、子どもの行動の意味や発達の特性を伝え、子どもは一人一人違うのだということを共に共感しながらアドバイスしていくことが大切です。

発達障がいは、その人が生きる文化に左右されてしまいますが、そうではなく、その人らしく生きれる社会を作っていかなければなりません。その為に何ができるかを考えることが専門家です。園での環境を整え、その子の育ちを保障することが保育士の専門性です。そして、周りの子ども達もお互いに認め合い、助け合いや補い合うことができるように、発達障がいの子どもだけの問題ではなく、クラス、社会、全体の問題であることも話されました。

最後に、保育は意欲を育てる仕事です。今、自分の感情や思いを語れない大学生が多いそうです。それは、人と違うと不安で正解を求める社会になりがちなことが原因にあります。自分の気持ちが表現できることが大切であり、感情は3歳までに育つとのことです。保育者主導、指示の多い保育では、コミュニケーション力が育たない原因になり、保育者の言葉が子どもの思いを表現する為の素材であり、共感された言葉をたくさん溜め込んだ子どもの方が自分の気持ちや相手の気持ちを豊かに表現できることを話されました。

将来の日本を変えるとしたら保育者であり、保育者の専門性が変えていくことを話され、プロとして研修し保育を深めていくことの大切さを学びました。

第1回障がい児保育研修会
「発達障がいのある子どもへの理解と支援」

太養保育園　川田恵美子

平成27年度鳥取県保育所(園)第1回障がい児保育研修会が、2月28日(日)倉吉体育文化会館にて、川崎医療短期大学の重松孝治先生をお迎えして開催されました。

一番心に残ったのは、「私達保育者が〝～できない〟と否定的に子どもを見て、問題児扱いをしていないだろうか。果たしてそれは正しいのだろうか？保育者が話すことがちゃんと子どもに伝わり、理解されているだろうか？」という重松先生の言葉です。その言葉にドキッとしました。

よく、一人ひとりを大切にして、その子に合った関わり方をしていくと言いますが、これは障がい児保育にも通じるものと思っています。しかし、障がいのある子どもは、定型発達とは違うスピードで育っていきます。そこで、その子どもなりの「育ち方」と「育て方」に合わせて関わっていくことが大切になっていくということや、子どもの今の発達段階がどこにあるかを考え、その子に合った望ましい発達に向かって目標を立て、そこに向かっての支援や指導を保育者同士で共通理解して行っていくことの重要性を話され、その中で、保育者皆が同じ目線で目標に向かって子どもと向き合い、励ましたり認め合うきめ細やかな関わりを繰り返していくことで子どものスキルを伸ばしていく方法などを、具体的な実践例を交えながら分かり

易くお話をして下さいました。

話を聞かせて頂く中で、障がいに対する知識や障がいからくる病気の特徴をしっかりと見極めたうえで子どもに寄り添っていくことで、できるだけパニックになったり注意されずにすんだり、喜んで友達と交わったり楽しく生活していけるよう、子ども一人ひとりを理解して関わっていく努力をもっとしていかなければならないと感じました。そして、小さな成長にも気付いていけて、周りの子ども達とともにその成長を喜びあえたり、認めあえる保育に努めていきたいと、改めて思いました。

保育の広場

大切な仲間

めぐみ保育園　森本　樹

「昔みたいに野球したいな～。」「よし、野球チーム作るか。」酔っぱらった勢いで昔の仲間に電話。「おー!!やろうか。」と周りからも適当な返事が返ってきた。でもその一言が二か月後には現実となった。昔の仲間を誘い、「Ｓｕｎｓｅｔ Ｍｏｎｋｅｅｓ」という野球チームを作った。初めは6人でスタートしたチームも、仲間が仲間を呼び、外に出ては仲間に声をかけ誘い、今では23人ものメンバーになった。

毎週日曜日は大好きな野球。野球終わりにみんなでバリうま、暇さえあれば夏は海、勝っても負けてもある飲み会、冬には蒸すところから始めたもちつき大会、体育館を貸しきりＭＶＰの賞金を懸けての運動会等、仲間たちと色々なことを計画して、実行し楽しんで、幸せなひとときを過ごしている。初めて顔を合わす自己主張の強いメンバーもお酒を交わし、一緒にあそべばすぐ仲良くなった。野球よりも飲み会の方が参加率の良いメンバーだが、職種も年齢も違う仲間たちが集まり色々な活動をしたり、語り合ったりと、どんちゃん騒ぎの時間は本当に最高の時間である。そして今年は『申年』。この猿軍団で、めざすは優勝。みんなで一つの目標に向かい、頑張っている。こんなにも幸せな日々が送れるのは、大切な仲間の存在があるからだ。

そして大好きな仕事をする中で、仲間から教えられたこと、自分が経験したことを子どもたちにも伝えたい、仲間の大切さを感じてほしいと、昨年、そして今年と4、5歳児の担任をしている中で、保育の中にチーム対抗戦やグループでの活動を多く取り入れている。『一人ではできないことも友だちとならできる。』『友だちと一緒に喜び合うことは楽しい。』『困っている友だちに何かしてあげたい。』その気持ちを味わい、感じ、子どもたちにも友だちを大切にしてほしいと願っている。

これからも周囲の人への感謝の気持ちを忘れずに、出逢った大切な人をいつまでも大事にしたい。そして、子どもたちにも、家族、先生、地域の方、これから出会うたくさんの人への感謝の気持ちを忘れず大きくなってほしい。

身体を動かすこと、子どもが大好きな自分にとって、この仕事は天職だと胸を張って言える。そしていつまでも子どもたちの『ガキ大将』で共に成長していきたい。

大好きな仕事に出合い、大好きな仲間に出逢い、本当に自分は幸せ者です。

＜絵本の紹介＞

おとなの絵本

「だいじょうぶ　だいじょうぶ」

作・絵　いとうひろし
（講談社の創作絵本）
ISBN：9784061323353
定価 1,300円（税別）

いつも、忙しく“がんばれ”と毎日を過ごしてるあなた。ゆっくり、のんびり歩いてみたら幼いころの自分を思い出し、ぼくらの周りにはこんなにも、楽しいことであふれていたと少し疲れた大人にも、前を向く力を与えてくれる絵本です。

「おばけの作り方 教えます」

著　芳賀　　哲（一声社）
ISBN：97844870772199
定価 1,500円（税別）

毎年どんなおばけを作ろうかと悩みますね。この本には、なんと21種類のおばけが載っています。まるで飛んでいるかのように動くおばけ、カタカタ音が鳴るガイコツ、首がニュ～と伸びるろくろっ首、ガイコツの顔がすすすっと動く不思議な絵など…。おばけ屋敷ごっこなどで活躍しそうな一冊です。

子どもの絵本

「ぼくにげちゃうよ」

絵　マーガレット・W・ブラウン、
　　クレメント・ハード
訳　いわた　みみ
（ほるぷ出版（海外秀作絵本））
ISBN：9784593500260
定価 1,000円（税別）

1942年初めて出版され、以来絶えず版を議ね今では子どもの本の古典となっています。ほほえましい言葉のマジックと美しい詩情あふれる絵のとりこになる絵本です。何代ものお母さんとその子どもたちに変わることなく愛されつづけていくことでしょう。

「チビねずくんのなが～いよる」

作　ダイアナ・ヘンドリー
絵　ジェーン・チャップマン
訳　くぼしま　りお
（ポプラ社）
ISBN：9784591065792
定価 1,200円（税別）

誰もが寝ている真夜中のこと。ぐっすり眠っているオオねずくんを眠れないチビねずくんが何度も何度も起こします。風の音、木の枝の音、ふくろうの声、水の音などいろいろな音もでてくるので楽しめますよ。オオねずくんを起こすたびに「ねえ、いっしょにねてもいい？」「だめ、ねぞうがわるいから」などの２匹のやりとりもほほえましい絵本です。

平成28年度　事業計画

期　日	事　業　名	場　所	備　考
平成28年５月25日(水)	代議員会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成28年５月25日(水)	第１回施設長研修会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成28年６月９日(木)	第１回合同部会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成28年７月３日(日)	第１回食育研修会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成28年７月４日(月)～６日(水)	第59回全国私立保育園研究大会	東京都	全国私立保育園連盟
平成28年７月13日(水)～15日(金)	第30回保育を高める研究集会	栃木県宇都宮市	日本保育協会
平成28年７月14日(木)～15日(金)	第62回中国地区保育研究大会	岡山県	中国地区保育協議会
平成28年７月21日(木)	主任保育士研修会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成28年７月27日(水)	初任・初級保育士研修会①	大山町 森の国	
平成28年８月19日(金)	初任・初級保育士研修会②	県内保育所	
平成28年８月27日(土)	保育士研修会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成28年８月調整中	第２回施設長研修会	未定	
平成28年10月12日(水)～14日(金)	第60全国保育研究大会	徳島県	全国保育協議会
平成28年10月22日(土)	第１回障がい児保育研修会	米子市 ふれあいの里	
平成28年10月23日(日)		鳥取市 福祉人材研修センター	
平成28年10月25日(火)	初任・初級保育士研修会③	倉吉市 倉吉体育文化会館	
平成28年11月５日(土)	第２回障がい児保育研修会	米子市 ふれあいの里	
平成28年11月６日(日)		鳥取市 福祉人材研修センター	
平成28年11月13日(日)	第２回食育研修会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成28年11月17日(木)～18日(金)	第50回全国保育士会研究大会	兵庫県神戸市	全国保育士会
平成29年１月21日(土)	第２回合同部会	倉吉市 倉吉未来中心	
平成29年１月22日(日)	第64回鳥取県保育推進研究大会	倉吉市 倉吉未来中心	
調整中	第１回乳児保育研修会		
調整中	第２回乳児保育研修会		

※期日及び内容等については、変更となることがありますので御了承ください。

編集後記

平成28年度から、保育士資格国家試験が、年2回開催されることになりました。人材確保施策ですが、同時に、保育者の質の向上施策も考えていかねばならないと感じております。（H・S）

節分・立春と過ぎ、今年度もあとわずかとなりました。
今年の節分には色々な鬼が出てくる絵本に出会い、「鬼にもそれぞれ違いがあるんだなー」との思いを新たにしました。
これからも無病息災でみんなが楽しく過ごせますように。（K・M）

45年ぶりに大相撲の巡業が倉吉で開催されました。テレビでは相撲を見たことがあるものの、実際に間近で力士にお会いするとあらためて感動するものですね。琴奨菊関優勝おめでとうございます！（J・R）

以前、息子が小学校から持ち帰った親子読書の手紙の中に、『いのちとは君たちが持っている時間である』という言葉を目にしました。その時、何気なく過ぎていく時間も尊いんだなぁとはっとしました。年度末になり、追われている自分に言い聞かせています。（M・K）

「ゲゲゲの鬼太郎」の漫画家水木しげるさんが亡くなりました。父と同じ時代を生きた人です。父の入院時、母犬を亡くした子犬が我が家に来て、16年。家族みんなが癒されました。その愛犬も旅立ちました。末息子が、ありがとうそして安らかにと花をたむけた。（K・K）

最近歴史に興味があり新撰組の本を読んでみると、所属していた侍は、ゆすり・恐喝・酒に女・といった生活をしていたようです。幕府に忠誠を近い、悪者を成敗し結束力のある集団で悲劇の侍というかっこいいイメージが…本当の歴史とはなにか。今後も色々と興味が湧いてきました。（K・K）